

11月を「あいさつ強化月間」とします

朝夕は、やや肌寒く感じる今日この頃、明日から11月です。今年度も7か月が経過し、生徒それぞれが心身ともに成長しているように感じます。

しかし、最近少し残念なことがあります。それは、「あいさつ」です。朝から校門に立っていますと、実に清々しいあいさつをして登校してくる生徒がいます。一方、うつむき加減で、こちらからあいさつをしても無言で通り過ぎたり、頭を少し下げるだけで通り過ぎたりしていく生徒もいます。この差は、なぜ生まれるのでしょうか。

ご家庭ではいかがでしょうか。きちんと「おはようございます」とか「いただきます」とか「ってきます」、「ただいま」とかきちんと挨拶をするよう躡けられていますか。

挨拶は、「中世に日本に輸入された漢語で、元来、禅宗において僧が問答を繰返し合う意味、また単に受け答えの意味として使われた。現在では他人に対して尊敬や親愛の気持を表わす動作、言葉、文面などを意味するようになっている。(広辞苑)」とのこと。

本校では、もっと「あいさつ」を向上させるために、11月を「あいさつ強化月間」として、あらゆる機会をとらえて指導していきたいと考えています。保護者の皆様、地域の皆様の御協力をよろしくお願い致します。

特に3年生は、これから、受験に向け面接の練習等もあるかもしれませんが、あいさつがきちんとできなければ、夢や希望を達成することはできないでしょう。学校と家庭と地域社会が協力して、あいさつの苦手な生徒が気持ちの良いあいさつを身に付けられるようがんばりましょう。

最後に、あいさつに関する名言を紹介しておきます。

「人に好感を持たれたければ、誰に対しても挨拶をすることだ。挨拶ほど簡単でたやすいコミュニケーション方法はない」
デール・カーネギー（実業家・作家）

「挨拶とは何か、それは『心を開いて相手に迫る』ということです」
鈴木健二（元NHKアナウンサー）

「マナーのある人が先に挨拶する」
奥脇洋子（マナー・コンサルタント）

「挨拶は、人間らしく生きるための基本の心である。親に挨拶の心がないと、それは必ず子供にも表れる」
野村克也（プロ野球監督）

